

種別	児童養護施設	定員	30 名
施設長氏名	林 直	所在地	新潟県
実施年度	平成 26 年度		
実施結果	<p>【評価にばらつきがあった項目】</p> <p><u>1-(6)-②</u> 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。</p> <p><u>1-(12)-①</u> 措置変更又は受け入れに当たり継続的に配慮した対応を行っている。</p> <p><u>7-①</u> 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育、研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。</p> <p>【a 評価が多かった項目】</p> <p><u>1-(2)-②</u> 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。</p> <p><u>1-(9)-②</u> 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。</p> <p><u>1-(12)-③</u> できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。</p> <p><u>6-(1)-③</u> 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。</p> <p><u>8-(3)-②</u> 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。</p> <p>【c 評価が多かった項目】</p> <p><u>1-(6)-①</u> 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやる心を育てるよう、性について正しい知識を得る機会を設けている。</p> <p><u>1-(12)-①</u> 心理ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。</p> <p><u>6-(2)-②</u> 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。</p>		

【前年度の総評を受けて】

前年度、特に改善が求められる点として指摘があった 3 点についての対応状況は下記のとおり。

- (1) 「子どもの最善の利益のために、チームとしてさらなる働きかけが期待される。」
－子どもの問題や課題に対しては、寮長及び副寮長のリーダーシップの下で、子どもの状況や職員の関係性等を勘案して即時対応している。しかし、前年度に指摘のあった職員間のチームワークの強化については継続課題である。
- (2) 「アセスメントと自立支援計画をより利用した子どもへの支援が望まれる。」
－計画的な自立支援計画の作成は実施している。更に自立支援計画を活用した支援ができるよう施設として取り組む必要がある。
- (3) 「標準的な実施方法の必要性の検討、整備が求められる。」
－食生活、学習、進路等の具体的なマニュアルの精度向上の必要がある。全国児童養護施設協議会の方針でもある人権擁護についてのマニュアルの作成も今後進める。

【今年度の第三者評価自己評価結果に対する施設のコメント】

自己評価を実施し、施設としての評価できる点、改善しなければいけない点が把握できた。また、自己の支援の振り返り等にもつながった。昨年度、評価機関から受けた指摘項目については今後継続して取り組んでいく。